

弥生時代の祭りの道具の形とその分布状況



西日本に多く分布する青銅器

青銅器は発掘調査によって発見されることもありますが、多くは耕作や土木工事などに偶然発見されています。弥生時代に日本に伝わってきた青銅器ですが、日本中に均等に広がったものではないことが、各地で発見された青銅器の分布状況から、わかってきています。

日本で最初の 金属製品

青銅器の種類・歴史
・分布を探る

祭器として用いられた日本の青銅器

弥生時代、日本には稲作技術とともに、金属製品である鉄器や青銅器がはじめて伝わってきました。鉄は硬く、切れ味も良かったため、刃物や農耕具に使われましたが、青銅器は鳴り物や武器といった当初の機能を失い、しだいに大型化するようになっています。

たとえば青銅器の一つである銅鐸は、中国で牛など家畜の首につけられていた小さなベルがルーツと見られますが、日本の銅鐸は二〇〜三〇センチもある大きな形をしています。なぜ日本の銅鐸が大型化したのか、その理由はまだわかっていません。荒神谷遺跡から発見された銅鐸は、日本でももっとも古い時期のものと言われ、銅鐸の役割や変化の過程を知るうえで注目されているのです。

青銅器のもう一つのグループとして、剣・矛・戈など武器から発達したものがあります。これら武器形青銅器も、最初は先端が鋭く刃もつけられていますが、しだいに大型化して刃先も丸くなり、実用的な武器ではなくなりました。

そのほかの青銅器として鏡がありますが、島根県では弥生時代の鏡の発見例はほとんどありません。全国的にも、朝鮮半島に近い九州北部に集中しています。



家畜の首にかけたベル

九州北部で大量に出土する以外には、あまり見られません。こうした青銅器は、弥生時代には貴重品で、一般の人びとが個人で所有するものではありませんでした。青銅器は、弥生時代における社会や祭りの様子を復元するうえで重要な手がかりとなる遺物なのです。

銅鐸の形の変化

実際に音を鳴らして使った銅鐸



鹿島町志谷奥遺跡出土の銅鐸 (大福遺跡出土の銅鐸)

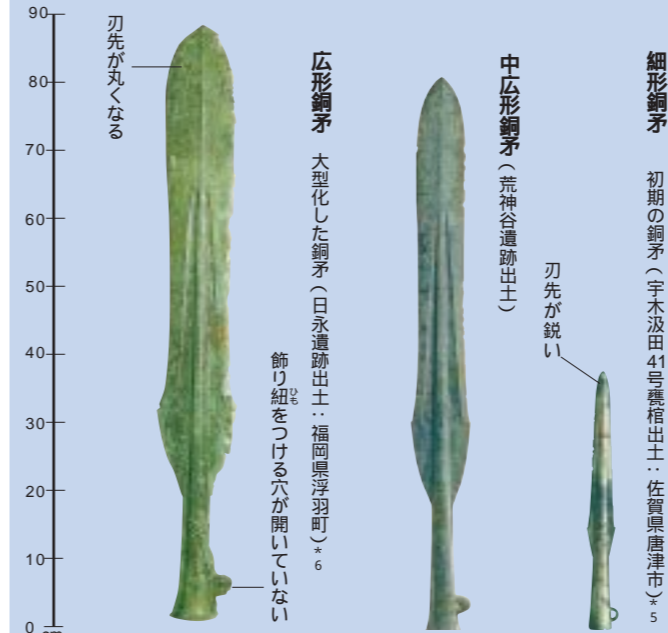
音を鳴らさず、見ることを目的にした銅鐸。大きいものは1mを超える。



近畿式銅鐸 (大岩山遺跡出土：滋賀県野洲町)*2

*1.写真提供：桜井市教育委員会 *2.写真提供：野洲町立歴史民俗資料館、野口忠蔵氏蔵

銅剣・銅矛の形の変化



*3.*5.写真提供：佐賀県立博物館 *4.写真提供：広島県立歴史民俗資料館、新良貴市四郎氏蔵 *6.写真提供：九州歴史資料館

青銅器は大別すると、銅剣・銅矛・銅戈といった武器類のもの、家畜の首につけるベルから発展した銅鐸の二種類に分けることができます。また朝鮮半島に近い九州北部では、この二種類のほかに鏡や装飾品などもたくさん出土しています。

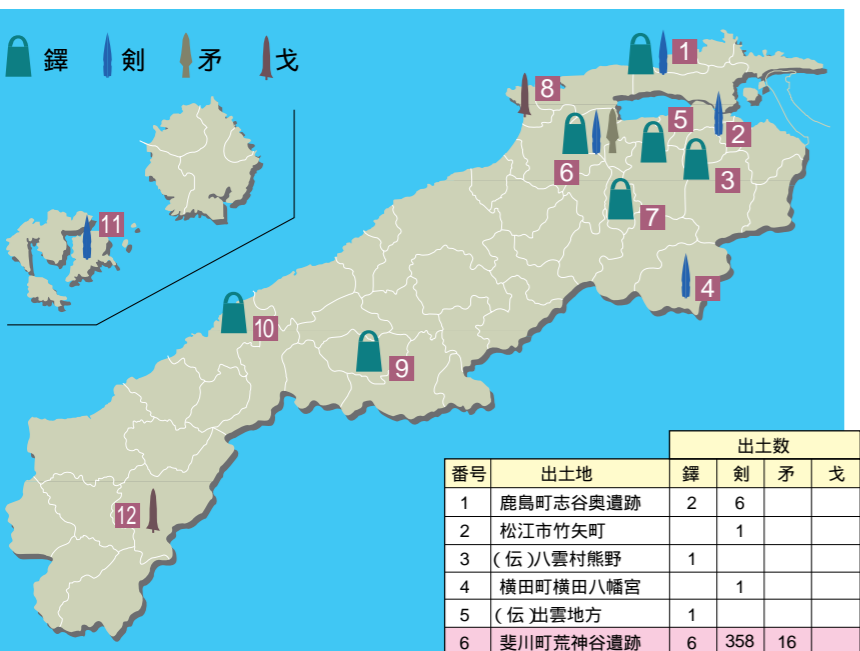
武器形の青銅器は西日本一円で出土していますが、とくに福岡・佐賀・熊本北部・大分北部・対馬といった九州北部に集中しています。

銅鐸はこれまで、近畿地方を中心に、東海や四国東部で集中的に出土することが知られていました。しかし近年、九州北部でも銅鐸や銅鐸の鑄型が発見され、分布範囲が塗りかえられる状況にあります。

一方、関東や東北地方では弥生時代にはまだ青銅器が普及せず、銅剣をまねて石で作った有角付石斧を、青銅器の代用としていたようです。

島根県は荒神谷遺跡が発見されるまで、青銅器の出土例が少なく、考古学上それほど注目されていませんでしたが、三三八本もの銅剣の発見によって、にわかに脚光を浴びるようになりました。今では、「中細形銅剣C類」と呼ばれる形の銅剣を集中的に保有する地域として、島根県は考古学上重要な位置を占めています。

今まで大量の青銅器が出土した遺跡としては、四八本の銅剣が出土した福岡県春日市原町の例や、二四本の銅鐸が出土した滋賀県大岩山の例があります。銅剣三三八本と銅鐸六個、銅矛一六本を出土した荒神谷は、これらをはるかにしのぐものです。荒神谷遺跡は、それまで常識とされていた青銅器の分布圏や、弥生時代の出雲観を大きく揺さぶる大発見と言え、弥生時代史を解明するうえで、大きなキーワードになるのです。



島根県の青銅器出土地

島根県で発見された青銅器のうち、発掘調査を経て見つかったものは荒神谷遺跡だけで、多くは古くから神社に伝来するものや、農作業中に偶然発見されたものである。上記以外にもまだたくさんの青銅器が、人知れず眠っていると考えられる。

番号	出土地	出土数			
		鐸	剣	矛	戈
1	鹿島町志谷奥遺跡	2	6		
2	松江市竹矢町		1		
3	(伝)八雲村熊野	1			
4	横田町横田八幡宮		1		
5	(伝)出雲地方	1			
6	斐川町荒神谷遺跡	6	358	16	
7	(伝)木次町	1			
8	大社町命主神社				1
9	石見町中野飯屋	2			
10	浜田市上府町城山	2			
11	海士町竹田		1		
12	匹見町水田ノ上遺跡				1

(伝)は、その土地から出土したと伝えられるもの



写真提供：佐賀県立博物館

中国から輸入された鏡

(佐賀県唐津市・桜馬場遺跡出土) 朝鮮半島に近く、青銅器やその原料を入手しやすかった九州北部からは、豊富な種類の青銅製品が出土する。とくに中国の史書にも現れる奴国(福岡市付近)・伊都国(福岡県前原市付近)・末盧国(唐津市付近)の王墓からは、大量の中国製の鏡や、国産の銅のプレスレットなども発見されている。